

平成29年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	33	学校名	清水南高等学校・同中等部	校長名	合田 俊弘
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	中高一貫教育校にふさわしい教育課程の検討、授業改善及び学習指導の充実を図る。	「授業がわかる」と答える生徒の割合：80%（中・高共通）	中 83% 高 75.1%	B C	生徒に学力格差があり、下位層がわかる授業の工夫が必要。
		週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80%（中・高共通）	中 78.5% 高 68.1%	B C	単に宿題を出すだけでなく、目的意識をもち自ら生活時間を管理し多忙でも毎日学習する自立した生徒を育てたい。
		校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計 12回 美術鑑賞、実技講習会等実施回数：年間計 10回	音 14回 美 12回	A	有意義な学びの機会となった。音楽では今年度 清水特別支援学校との音楽交流会を始めた。新国立劇場訪問は次年度も継続したい（調整中）。
		芸術科を本校の特色として感じている生徒の割合：80%	中 96.7% 高 95.5%	A	普通科も芸術科の活動に触れ、良い刺激を受けている。今後も芸術科の広報に努める。
イ	こころざしを育むための進路指導の充実を図る。	講演、講義等の回数：年間計7回 (中等部)	7回	A	中等部は事業所等校外での体験、研修機会を設けるなど実践的な進路学習に取り組んでいる。
		中学：学力到達度調査（中3の評価A以上を27%以上） 高校：国公立大学実合格率（普通科35%以上）、芸術系大学実合格率（芸術科70%以上）	中 31.6% 普 25.4% 芸 66.7%	B C C	評価S10人 A27人。昨年度の中3生より上位層は薄い为目标値は上回った。 高校では国公立大学をめざして指導を継続したが、生徒の学力差や県内指進学向もあり目標値に達しなかった。
ウ	中高が連携し、効果的な生徒指導を推進する。	年間の交通事故件数：中等部・高校ともに前年度比減	中 3→5件 高 5→6件	C	中高とも件数は前年比増だが一昨年は下回っている。次年度は新道開通で学校周辺の交通量が増えるため、安全対策が必要。
		「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合：中高70%	中 67.9% 高 61.7%	C	ボイスシャワーなど生徒に寄り添う取組を継続し、職員への信頼を高める。
		「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：70%（中・高共通）	中 79.3% 高 67.7%	A C	目標値は下回ったが、生徒の自己肯定感を高める取組に一定の成果はあった。
		生徒向け「相談室だより」発行：年間計 10回	2月まで9回	B	相談室担当は生徒支援に努めているが、不登校傾向の生徒が改善する例は少ない。

様式第3号

		「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%(中・高共通)	中 77.8% 高 67.7%	C	相談する相手は友人が多いが、教員にも相談しやすい環境づくりに努める。
エ	学校行事、生徒会活動、部活動等の充実を図る。	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上(中高)	中 90.3% 高 87.6%	A	部活動への取組は良い。短時間で効率的な部活運営に努め学習等との両立をめざしたい。
		海外研修(中3、高2)で「充実している」と答える生徒の割合：90%(中・高共通)	中 100% 高 94.5%	A	生徒の目標達成度が高く、充実した研修であった。ただし、語学研修をメインとして捉えるのならば、研修先等は再考の余地がある(高2)。
		地域に目を向けた教育活動の実施：年間5回	6回	B	福祉委員会の羽衣の園訪問や、清水特別支援学校等との交流のほか、管弦楽部の演奏が好評。
		「学校が楽しい」と答える生徒の割合：80%(中・高共通)	中 85.9% 高 68.2%	A C	高校へ進むと学校への満足度が下がる。生徒にとって魅力ある学校づくりをめざしたい。
オ	開かれた学校づくり、安心・安全の学校づくりを推進する。	土曜オープンスクール参加者数：年間1,600人 ホームページアクセス：年間500,000件	1,511人 約85万件	C A	本校保護者以外の来校者を増やし志願者増につなげたい。 HPのアクセス数は多く、昨年同様1日平均2300件をこえた。
		PTA総会出席率：50% 学年保護者会の出席率出席率50%以上(中・高共通)	中 52.7% 高 50.9% 中 80,60, 79% 高 48,51	B A B	PTA総会で進路講演、高校保護者会では卒業生保護者の講演を同時開催するなど魅力ある内容になるよう努めた。中等部保護者は概ね関心が高い。
		実践的防災訓練実施：年間3回 地域防災訓練参加率： 中等部 75%、 高校 45%	3回 中 76.4% 高 32.4%	A B C	地域防災への参加率は高校になると下がる。次年度は学校防災推進協力校となるため、防災教育の一層の内容充実を図る。
		講話や研修等の取組：月1回以上 県報告レベルの不祥事発生：0件	全職員会議で実施 県報告なし	A	不祥事がないよう、機会をとらえて注意喚起と情報提供を行い、職員の緊張感を維持できた。
カ	事務業務の見直しと改善を図る。	学校経営予算の執行残：10万円未済	事務部	A	昨年同様 計画通りの目標に向かい実現できる予想である。

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった